

2017年4月20日

北海道知事

高橋 はるみ 様

日本共産党北海道委員会

委員長 青山 慶二

日本共産党北海道議会議員団

団 長 真下 紀子

米海兵隊・自衛隊によるオスプレイ訓練の中止を求める要請

今年8月に陸上自衛隊矢臼別演習場で実施予定の日米共同訓練に、垂直離着陸機MV22オスプレイが道内で初めて参加し、同機を使用した訓練場所として北海道大演習場も候補地として検討していると報道されました。

オスプレイは昨年12月14日に沖縄名護市で墜落・大破しましたが、米軍の調査でも事故原因が特定されていません。にもかかわらず3週間後には飛行が再開され、日本政府も「理解」を示して、国民の安全より「日米同盟」を優先した態度に大きな怒りが広がりました。米海兵隊のオスプレイは、横田基地、厚木基地、キャンプ富士、岩国基地などに飛来し、訓練を繰り返しています。木更津基地にはオスプレイの日米共同整備拠点がつくられ、横田基地には、米空軍の特殊作戦用オスプレイ10機が今年配備される予定となっています。

佐賀空港に自衛隊のオスプレイ配備が狙われ、自衛隊が導入を決めているオスプレイをあわせれば、日米で50機ものオスプレイが日本全土を飛び回ることになります。事故の多いオスプレイは、プロペラが壊れやすいなど機体構造に問題を抱えていると指摘される欠陥機です。墜落の危険にとどまらず、騒音や振動、火災などの被害も予想されます。沖縄県外ですで行われている訓練では、低空飛行訓練や夜間飛行訓練も行われ、市街地上空の飛行に不安が広がっています。こうしたオスプレイの道内訓練は、道民の安全を脅かすものであり到底容認できるものではありません。

また矢臼別演習場では1997年以来米海兵隊の訓練が固定化され、2013年6月には、砲撃訓練中に実弾が場外着弾し、周辺自治体や住民から憤りの声が上がりました。

このようなことから、以下のとおりオスプレイによる訓練と日米共同訓練の固定化を認めないよう国に表明することを求めるものです。

記

- 1、オスプレイの道内訓練・飛行の中止を求めること。
- 2、訓練の詳細やオスプレイ参加について国からの説明を求め、公表すること。
- 3、フライトプランなどの事前公開を国に求めること。
- 4、道内基地の機能強化、道内演習場の米軍使用の状態化・固定化を認めないこと。

以上